

第9章 世界における脱炭素化への貢献

二次元
コード

※詳細な内容はこちら

北九州市には、かつて深刻な公害を克服してきた実績を海外の都市が抱える課題解決に活かしてきた、「環境国際協力・環境国際ビジネス」という強みがあります。これを最大限に活用するとともに、新たにサステナビリティ(持続可能性)の視点も踏まえ、アジアを中心とする世界の脱炭素化に貢献していきます。

1 削減目標

(1) 目標の考え方

アジア地域における目標としては、

- ①北九州市の環境国際協力や技術移転による直接的な削減
- ②マスタープラン策定などにより貢献した都市・工業団地全体の削減
- ③北九州市の環境国際協力の技術の応用や市内企業の製品の使用による副次的な削減などによる「温室効果ガス削減量」を設定することとします。

※積算方法について未確立の部分は、今後、国や他自治体の動向を見ながら検討。

(2) 削減目標(累計)

	2030年度	2050年
温室効果ガス排出削減量(累計万t-CO ₂)※1	▲1,450	▲2,900
温室効果ガス排出削減量(%) (2013年度北九州市排出量比)※2	▲75%	▲150%

※1 2013年度からの累計。国の算定方法とは仕組みが異なる自主的な削減目標(貢献)。

※2 北九州市の2013年度温室効果ガス排出量は1,950万t。
この値は、算定基礎としている各種統計データの遡及修正等により変更される場合がある。

2 推進体制

アジアカーボンニュートラルセンター



29 3つの組織が相互に連携し、アジア地域の脱炭素化を推進

3 主な取組内容

(1) 環境国際協力や技術移転による直接的な削減

廃棄物焼却発電施設導入プロジェクト/フィリピン・ダバオ市



人材育成、環境啓発(ごみの分別やコンポストの普及)

廃棄物焼却発電施設の導入イメージ

(2) マスタープラン策定などにより貢献した都市・工業団地全体の削減

エコタウン整備(海外展開)/インド

インド・テランガナ州との都市間ネットワークや現地パートナー等との連携による、インド版エコタウンの整備



2025.6.2
テランガナ州と友好協力協定締結

(3) 環境国際協力の技術の応用や市内企業の製品の使用による副次的な削減

廃棄物のセメント原燃料化や森林火災・泥炭火災における低環境負荷消火剤の導入等



【森林火災・泥炭火災対策】

4 環境人材育成とネットワーク構築

海外からの研修員の受け入れや技術者の派遣等を通じて培われてきた国際的なネットワーク、市民や企業等に根づく国際協力のマインドなどを背景に、環境・水ビジネスを展開し、世界の脱炭素化に貢献



【国際研修の様子】